

吉田寮のことを知ってください!

例えば、ノーベル賞の受賞者など、これまで多くの学者や文化人を輩出してきた吉田寮。

ここで長年、受け継がれてきたのが **自治会** という制度です。

寮に入りたい学生の選考を自分たちで行うなど、寮の運営は大学ではなく、寮生に委ねられてきました。

吉田寮とはどういう場なの？

吉田寮には、現棟（1913年築）と新棟（2015年築）、食堂（2015年に補修完了）という3つの建物があります。吉田寮は年間3万円で住むことができ、経済的に困窮した学生のセーフティネットの役割を果たしてきました。さらに、寮は自治会が運営する自主管理空間として、様々な人が、自主的に、自由に様々な活動をする場でもあります。

吉田寮に関することについては、寮自治会と大学の担当者で合意を形成し、書面による約束を交わしてきました。新棟の建設も食堂の補修も、度重なる話し合いの末、実施に至ったのです。そして、築105年の現棟の老朽化対策は、2012年に補修の方向性で大学の担当者である学生担当理事と寮自治会が書面で合意し、実現に向けて議論を進めてきました。

どうして「出て行け」と言われているの？

こうした議論の積み重ねがあったにもかかわらず、現在の大学執行部は昨年12月、吉田寮生の全員に寮から退去するよう求める「基本方針」を発表しました。退去を求める理由について執行部は、「寮生の安全確保」と学内の会議では説明しました。しかし、築3年の新棟からも、さまざまな理由を次々と付加して、退去を求めています。また、寮生を追い出してその土地をどう使いたいのかについても、寮から説明を求めています。大学当局は具体的な言及を避け続けています。

吉田寮は、吉田寮生や京大生だけでなく、広く開かれた場所であることを大事にしています。まずは実際に来てみて寮に関わる様々な人たちと交流してみませんか？

吉田寮見学ツアーや食堂酒場&厨房ライブ、芝居など不定期に開催しています。また、大部屋に宿泊可能です。

（カンパ制、予約不要、スペースに限りあり）



吉田寮の主張

吉田寮自治会としては、当事者であるわたしたち、これから吉田寮を必要とする人を軽視して福利厚生を縮め、寮生の追い出しを進めるやり方を認めることはできません。だから、不当な「基本方針」の撤回を京大当局に求めています。そして、寮という公共性の高い空間の今後の活用については、公開の場での寮自治会との話し合いで決めるよう求めています。現棟の老朽化対策についてはこれまで、大学当局に対して複数の案を提示し、意見を求めてきました。しかし、残念ながら、ここ3年ほど「検討中」以外の回答はないのが現状です。



【問い合わせ：吉田寮】

070-3870-3599

（電話番号変わりました!）

yoshidaryo.jichikai@gmail.com

← 公式サイト

<https://sites.google.com/site/yoshidadormitory/>